

鳴海ヶ丘新聞

第2号

2015年11月



展覧会 開催



10月17日は、鳴海ヶ丘幼稚園の展覧会でした。今年のテーマは『身近な生活から世界の国へ』です。第一ホ

題して、フランスと10国を選び、フランスのみんなを協力して作った作品が並びました。

光を通すと、とてもきれいなストンドグラスは「フランス」。星座の絵と形を合わせた絵合わせが、楽しかった「ギリシヤ」。南米三大祭りの一つポリアの「オルロカーバル」のお面と衣装は、迫力がありました。そして、「メキシコ」の色とりどりの「ガイ」に、「パプアニューギニア」の精霊たちは、とても可愛かったです。そして、「中国」の京劇の役者に変身した子どもたちの写真は、今にも踊りださそうでした。



心を育てる環境教育

本学園の環境教育の根本は、アメリカの作家で海洋生物学者であったレイチェル・カーソンの著書『センス・オブ・ワンダー』に凝縮されます。つまり、自然のすばらしさに深く感動する心、自然の中で生かされるいのちを大切にすることを育てることです。そして、自然体験を通して、自然のしくみや性質に気づき、科学的態度の芽生えを育てます。さらに、身近な環境から広くは地球環境にも興味をもち、地球での生き方(エコライフ)へと展開していきます。そこで本学園では、幼稚園教育要領の領域「環境」をガイドラインとし、「自然・環境あそび」「エコライフ」「エコ活動」をカリキュラムに取り入れています。

『環境教育実践』
岡田勝彦 著 より



自然環境あそび

「めだか」年少

一学期、フランス

やってきたメダカの卵、かえったばかりの時、「ちいさくてみえないよ」と、子ども達は毎日水槽に顔をピタリとくっつけて、一生懸命のぞきこんでいました。それが今では、「セン子ほどに大きく生長しました。「めだかさん、おはよう」と挨拶をする姿や、「かわいー！」「あげる。」と、興味津々でお世話をする子どもたちのかわい姿を見るたび、温かい気持ちになります。すっかり、黄組の一員となったメダカたち。これからも、みんなでこの小さな命の生長を、楽しみに見守っていききたいと思っています。(渡辺)



自然文化デー

10月30日「おかざき世界こども美術館」へ年長組が行ってきました。秋の自然を満喫し、そして、キーホルダーと、フランチョンマツトを作ってきました。子ども達は、真剣に色をぬったり、絵を描いたり、その出来上がりを見た時は、笑顔いっぱいでした。



『なるなる畑の生き物達』年中

2学期もフランスでにぎわっている生き物コーナー。お友だちのように話しかけたり、お世話をしたり…。その中から人気の生き物を紹介します。



第一位は、畑の柿の木でみつけた、小さくかわいい「コワガタのオストメス」。冬越し目指して飼育中で、第二位は、さつまいも畑に隠れていたカマキリ。お腹がぼこり。卵を産んでほしく、このカマキリのために毎日みんなで手分けして畑でえさを探しています。

『自然科学あそび』年長

実験の大好きな青組では、今回「野菜を水に入れると浮く？沈む？」という実験をしました。さつまいも、里芋、ピーマン、かんを使いました。子どもたちに予想してもらった「ピーマンは中が空っぽだから浮くー」や「さつまいもやみかんは重いから沈むんじゃない？」と答えていました。いざ水の中へ入れると一番驚いていたのはみかんです。「うわー浮いた！何で？」と不思議そうに水槽をみつめていました。地面の下に出来るものは沈み、上に出来るものは浮くという話をすると、次々と試したい野菜や果物の名前を挙げていました。(山本)



SAKUSANK

今回の展覧会で初めて知る他国の文化がありました。知らないことを知るといのは何歳になっても感動です。小さなうちから皆さんの感動体験をしてほしいなと思います。今は秋ー絶対の行楽の季節です。色々な体験を!! (Y)

